

2009 年度自己点検・評価報告書

〔工学研究科〕

学生の受け入れ

目標：研究科の理念・目的にそった人材を受け入れるために次の到達目標を置く。

- (1) 入試制度・志願者等を総合的に分析し、志願者数のさらなる増加をはかる。
- (2) 意欲的な自立的学習、研究への姿勢を重視する入試制度を整備する。

(学生募集方法、入学者選抜方法)

A群：大学院研究科の学生募集の方法、入学者選抜方法の適切性

工学部・工学研究科のホームページにより、大学院工学研究科の募集要項を提供している。

大学院工学研究科博士前期課程については、学内選考、一般選抜、学部3年次生特別選抜、特別選抜（推薦）（他大学生のみが対象）、特別選抜（社会人）、特別選抜（帰国学生）、特別選抜（外国人）の各試験を実施している。また、博士後期課程については、一般選抜、特別選抜（社会人）、特別選抜（帰国学生）、特別選抜（外国人）の各試験を実施している。

博士前期課程の選考方法として、情報システム工学専攻は、学部3年次生特別選抜では筆記試験と口述試験を行い、その他は英語の筆記試験と口述試験を実施している。生命情報工学および環境共生工学専攻は学内選考、一般選抜、学部3年次生特別選抜では筆記試験と口述試験を実施している。その他は口述試験を実施している。博士後期課程の選考方法は情報システム工学専攻、生命情報工学専攻、環境共生工学専攻ともに、すべての入学試験を口述試験により実施している。

学生受け入れ促進のため、多様な入学試験制度の導入を図ってきた。一般選抜、特別選抜（推薦）、特別選抜（社会人）、特別選抜（帰国学生）の各試験は、9月と2月の2回実施し、受験機会を増やしている。

他の大学からの進学希望者のために、本研究科の指導体制、研究内容、修了後の進路状況等について一層の発信が必要である。また、外国人進学者の増加のために、本学の多数の交流提携大学に対して大いに情報を発信する。

(学内推薦制度)

B群：成績優秀者に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科における、そうした措置の適切性

学内選考試験で成績優秀者に対して、筆記試験の免除や口述試験での試験時間の短縮等を行っているが、成績優秀者だけの特別選抜試験は実施していない。

特に成績優秀な学生に対しては3年次生特別選抜試験として、飛び入学を実施しているのでこれ以上のことは現状では必要ないと思われる。

(門戸開放)

A群：他大学・大学院の学生に対する「門戸開放」の状況

校内選考試験以外は、どの大学・大学院からも応募でき選考内容も本学学生と同じである。さらに特別選抜（推薦）試験は他大学・大学院のみに開かれた選抜試験である。

制度としては十分に門戸を開放しているので、今後は志願者が増加する方策を考えていく必要がある。

（飛び入学）**B群：「飛び入学」を実施している大学院研究科における、そうした制度の運用の適切性**

「飛び入学」に関して、情報システム工学専攻については、出願資格は、履修できる情報システム工学科の専門科目について修得した専門科目が、規定された科目数以上を修得しており、その規定数の科目について、単位数の80%以上が、A以上の評価を得ていること。また、規定された科目数以上のAOの評価を得ていること。学部3年次修了時に、卒業に必要な124単位以上を修得できる見込みがあること。判定は、学部成績評価、筆記試験および口述試験の結果を総合的に判断する。生命情報工学専攻および環境共生工学専攻については、出願資格は、学部3年次前期修了時に、GPAが3.0以上で、学部3年次修了時に、卒業に必要な科目を120単位以上を修得できる見込みがあること。判定は、筆記と口述試験から総合的に判断する。筆記試験の合否基準については、一般選抜試験の合格基準点以上としている。

2009年5月時点で、飛び入学による在学学生は2名である。工学研究科が3専攻に改組されて以降過去3年の入学者数は2007年度1名、2008年度0名、2009年度2名である。

これまで入学した人数は平均すると募集定員の1%強と少ないが、退学や留年することなく修了しており、特に問題はない。

（社会人の受け入れ）**B群：社会人学生の受け入れ状況**

2009年5月時点で、情報システム学専攻では博士前期課程に3名、後期課程に3名が在学している。生命情報工学専攻および環境共生工学専攻では博士前期課程にそれぞれ1名が在学しているが後期課程には在学学生はいない。

社会人学生は大学からの進学者に良い刺激を与えている。しかし、定職を持ちながらでは、仕事との両立が時間的に無理な場合も多い。

（定員管理）**A群：収容定員に対する在籍学生の比率および学生確保のための措置の適切性**

本研究科の入学定員および2009年度入学者数については以下表1に、在籍学生数については表2に示した。

本研究科の2009年度における収容定員に対する在学者数の比率は博士前期課程で121%、博士後期課程で115%である。ともに、収容定員を20%程度上回る充足率となっている。

表1 2009年度工学研究科入学状況

| 工学研究科 | 博士前期課程 | | | | 博士後期課程 | | | |
|----------------|--------|------|-----|-----|--------|------|-----|-----|
| | 入学定員 | 入学者数 | 社会人 | 外国人 | 入学定員 | 入学者数 | 社会人 | 外国人 |
| 情報システム 工学専攻 | 30 | 43 | 1 | 2 | 4 | 1 | 0 | 0 |
| 生命情報工学専攻 | 20 | 23 | 0 | 1 | 4 | 5 | 0 | 1 |
| 環境共生工学専攻 | 25 | 26 | 1 | 0 | 3 | 4 | 0 | 1 |
| 計 | 75 | 92 | 2 | 3 | 11 | 10 | 0 | 2 |

表2 2009年度工学研究科在籍学生数（2009年5月1日現在）

| 工学研究科 | 博士前期課程 | | | | 博士後期課程 | | | | |
|----------------|--------|----|----|-----|--------|----|----|----|----|
| | 収容定員 | 1年 | 2年 | 計 | 収容定員 | 1年 | 2年 | 3年 | 計 |
| 情報システム 工学専攻 | 60 | 43 | 36 | 79 | 12 | 1 | 3 | 13 | 17 |
| 生命情報工学専攻 | 40 | 23 | 29 | 52 | 12 | 5 | 3 | 6 | 14 |
| 環境共生工学専攻 | 50 | 26 | 24 | 50 | 9 | 4 | 2 | 1 | 7 |
| 計 | 150 | 92 | 89 | 181 | 33 | 10 | 8 | 20 | 38 |